

第3回 しがの学びの保障と居場所の確保推進協議会 概要

1. 日 時 令和6年11月11日(月) 13時30分～16時

2. 場 所 滋賀県庁北新館5-B会議室

3. 出席委員(五十音順、敬称略) 17名

赤尾宗一委員、安藤りか委員、太田義人委員、鎌田ユリ委員、上村文子委員、
小正浩徳委員、是永麻記子委員、阪上由子委員、住吉由加委員、西野篤委員、野田正人座長、原
一晃委員、
増田史委員、南出久仁子委員、森奈津子委員、山田英樹委員

4. 欠席委員(五十音順、敬称略) 1名

岩崎成寿委員

5. 事務局

村井子ども若者部長、園田子ども若者部次長

子ども若者部子どもの育ち学び支援課：西川課長、清水参事、安達副主幹、瀧田主任主事
教育委員会事務局幼小中教育課児童生徒室：谷村室長、田中主査

6. 概要

(1) 「令和5年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」結果(概要)について

・事務局より参考資料1に基づき諸課題に関する調査結果を説明

【委員からの主な意見】

- ・不登校の子どもが増加したことのみ着目するのではなく、前年度より継続して不登校である子どもや、今年度、新たに不登校になった子どもの数にも着目すべき。
- ・長期欠席の中では病気に集計されているが、本質は不登校のケースと逆のケースがあり得る。
- ・広い意味での学びを考えた時、学びから外されている、結果的に外されてしまっている子ども達もいることを少し視野に入れるといい。

(2) 「フリースクール等民間施設を利用する児童生徒・保護者を対象としたアンケート調査結果」(途中経過概要)について

・事務局より参考資料2に基づきアンケート調査結果を説明

【委員からの主な意見】

- ・1つ1つのデータ、特に子どもの声について色々と考えさせられる。

(3) 不登校状態にある子どもへの支援策について

- ・事務局より資料Ⅰに基づき、不登校状態にある子どもへの支援策について説明。

【委員からの主な意見】

I 支援の基本的な考え方等

- ・不登校の数を減らすのではなく、子どもがその子らしく生きていける場所の確保、誰かとつながっていることが大事な取組の方向。
- ・専門家等や教職員からの指導・相談を受けていない人は、不登校の枠組みというよりも福祉的支援が必要な人たち。不登校支援の枠を超えており、重層的支援が必要な家庭。
- ・学校教員だけでアウトリーチの実態調査をするのではなく、SC、SSW等の専門家の見立ても入れる必要がある。

II チーム学校

- ・教員も色んな専門家の見立てや助言の必要性を感じており、学校で起こる様々な問題に対し、SC、SSW等専門性を持った人に協力いただきながらチームとして取り組んでいる。
- ・効果的なアセスメントに向けた多職種連携を進める上で、情報の整理、共有ができる体制が重要となる。
- ・学校全体で情報をいかに共有していくかが大事。
- ・教員が、SSW等と一緒に正確な見立てを早期にしていくことは、生徒指導の諸課題の焦燥化の防止となる。
- ・教員等が児童生徒へ対応をするチーム学校という考えではなく、子どもや保護者を中心に置き、さまざまな機関が横につながりを持ち、支援を考えていくチームができると、学校を卒業した子どもが、次、福祉へつながる体制ができる。
- ・不登校施策の旗振り役が必要。
- ・しんどい時にお互いどうケアしていけるか等支援者支援も大事。

III 効果的なアセスメントの実施

- ・逆境的小児期体験が不登校につながっているということを教員も理解する必要がある。
- ・アセスメントは、背景、状態と2つに分けて管理する必要がある。
- ・不登校はいくつかの経過を経ていくもの。どんないい関わりもタイミングが悪いと悪い関わりとなるため、子どもの状態のアセスメントも大事。
- ・効果的なアセスメントの実施に向け、その子の状態が分かるようデータベースで情報が整理されていることが大事。
- ・教員が正しくアセスメントを実施するのは難しいため、教員は支援者支援に繋げるような取組を繰り返すしかない。

- ・アセスメントの可視化をすることで、子どもの最善に近づくことができる。
- ・「児童生徒理解・支援シート」により、小学1年生から高校4年生までアセスメントした場合、情報を提供する立て付けが全国的に広がっていない。
- ・子どもの関わりの情報を集約し、一元化していく必要がある。
- ・アセスメントは体制だけでなく、子どもの最善の利益のために適切に必要な情報を送れるかが問われる。
- ・県がリーダーシップを取り、横断的な情報共有の体制を整えて欲しい。

IV フリースクール等民間施設

- ・子どもに寄り添い、人権を守る施設もたくさんある一方で、人権侵害型の施設もある。そういう中で、行政、学校としてどこを推薦できるのか難しい。
- ・学校に行けない子どもを持つ保護者から居場所、フリースクール等民間施設の相談をされるが、フリースクール等民間施設に関する情報が少ない中、安易に紹介しづらい。
- ・学校、フリースクール等民間施設の強み、弱みが分かると連携のヒントになると思う。
- ・公教育で担えない部分を民間施設に委託して欲しい。